



2015年8月9日

# いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの  
平和講演会から

日本はどうへ  
に向かうのか?  
戦争と平和の岐路  
に立つ今を考へる

②

## 日本とドイツの 戦後対応

第二次大戦で同盟を組んだ  
ドイツと日本との、戦後の歴  
史認識を比べてみた時、一つ  
の際立った対照がある。

かつてナチスドイツが、ポ  
ーランドに侵攻してコダヤ人  
を大量殺戮した時に、ユダヤ  
人が武装蜂起したことを記念  
した、「フルシャワゲットー  
蜂起記念碑」がある。197  
0年に戦後初めて西ドイツの  
首相がポーランドに訪れた時

かたや日本では、戦争責任  
を否定する政治家の発言が後  
を絶たない。安倍首相も村山  
談話を見直したいと発言して  
いる。同じ同盟国として戦つ  
た日本とドイツの、過去に対  
する姿勢が象徴的に表されてい  
る。

## 安倍晋三氏の 歴史認識

安倍首相の歴史認識を見る  
時に、参考となるのは、安倍  
首相が尊敬する人としてあげ  
ている吉田松陰である。

安倍政権下で吉田松陰は、  
小中学校の道徳教材に取り上  
げられるようになつた。なぜ  
吉田松陰なのだろうか。後押  
書を作る会」のメンバーだつ  
とも近い関係にあるグループ  
である。松陰は、戦前の尋常  
小学校でも道徳教材で扱われ  
た。そこでは「尊王愛國の精  
神を養うことにつとめ、全国  
に広めようとした人物」とし  
て取り上げられている。尊王  
愛國を大事にした松陰を立派  
な人だとする上で、子ども  
たちも尊王愛國は大事なこと  
など、間接的に思うこともある。

さらに、松陰の思想を顯著  
に表している「幽囚録」という、  
獄中で書いた遺言のような書  
簡を見ると、次のようなこと  
が記されている。まず、当時  
独立した国であった琉球王国  
を日本に従わせるべきである  
と主張し、さらに軍備を拡張  
しカムチャツカ、オホーツク  
州から台湾、ルソン島、果て  
はオーストラリアに植民地を  
設ければ、大きな利益がある、  
と主張していた。まるで、明  
治維新以降の日本がアジア諸  
国を植民地にしていったこと  
を、予言しているかのような  
記述である。おそらく長州藩  
士を中心として明治政府の要  
人になった人物になった人た  
ちにも、そのように教えてい  
たのである。明治政府は松  
陰の予言を実現するかのよう  
に、大東亜共栄圏まで行って  
しまったように見える。

この思想は、第二次大戦の  
戦時下でも『吉田松陰大陸・  
南進論』という書物で印刷さ  
れており、大東亜共栄圏とい  
う思想を予言した人として、  
神格化されていた。こここの部  
分をまったく隠したまま、子  
どもたちに誠実な人として吉  
田松陰を道徳の授業で教える。  
安倍政権下で、小学校から  
中学校の義務教育の道徳教育  
が、成績を付けられる対象に



2015年8月9日

# いま起きつつあること…

## NHKの報道のあり方

なり、愛国心教育をしたいと  
いう安倍政権の狙いに沿つた  
ものとなつてゐる。このこと  
をどのように考えるべきであ  
るのか。

氏の政治的力が増すのと並行  
してNHKはそのようになつ  
てきている。これはNHKに  
限らず主要新聞社は、どいつも  
同じように取り込まれてゐる、  
と語つていい状況である。

## 真の平和といつゝこと

現NHK会長や、前NHK  
経営委員だった百田尚樹氏の、  
これまでの発言でも分かると  
おり、今のNHKを信頼して  
見ることはできない。この  
0年代まではNHKも、核心  
に踏み込んだ客観的な報道を  
していたと思つ。しかし、わ  
たし（高橋哲哉氏）もコメン  
テーターとして関わった、2  
001年の慰安婦問題の番組  
において、当時の経済産業相・  
中川昭一と内閣官房副長官・  
安倍晋三氏がNHKスタッフ  
を呼び出して、圧力をかけた  
とされる「NHK番組改変問  
題」が起つたところから、様  
子が変わってきたと思う。

2000年以降、安倍晋三

武力によって支えられて  
いる平和は本当の平和ではない。  
しかし現実の世界はそうなつ  
ていない。そこで、武力なき  
世界を夢に抱きつつ、軍縮を  
進めていくことが今できる本  
当の平和への一步ではないか。  
具体的には、日本は周辺諸  
国と平和を作つていかなけれ  
ば、いつまでも平和ではあり  
得ない。イスラエルのように  
周辺国とはぜんぜん信頼関係  
もなく、いつ戦争になつても

おかしくない状況にありながら、遠くのアメリカと同盟関  
係を結んでいるから安心なの  
だ、としていることと日本は  
似ている。やつぱりひとでは、  
斯期的に見て日本の安全が保  
障されない。

自衛隊活動拡大の必要性と  
して中国脅威論があるが、必  
ずしもそれには与しない。中  
國は国連の常任理事国である  
から、国連憲章を守らなけれ  
ばならない立場にある。ナチ  
スドイツのよつなことをする  
とは思わない。しかし、脅威  
を与えているのは確かである。  
そのような中国と、日本はど  
のように付き合つていくのか。  
軍事的に対抗しようとしても、  
中国の軍拡を招くだけで、ま  
つたく無駄なことだ。日本に  
は戦後70年平和国家として歩  
んできたブランドのようなイ  
メージが、まだ世界の中に残  
つている。その立場にたつて  
周辺国家と平和を築いていく  
ことができるはずだ。

今回の講演で高橋先生は、  
今、国会で何が起つていて、  
それが日本の将来にどのよう  
な影響を与えるのかを、分か  
りやすく解説してくださいま  
した。また、安倍晋三氏の政  
治信念が、祖父である岸信介  
からの系譜であることなど、吉  
田松陰の思想を軸に、この国  
をどのような国にしていくの  
と考えているかを、話していく  
くださいました。

北朝鮮とも拉致問題や植民  
地支配の問題を乗り越えて、  
国交を正常化してやつていく  
以外にない。韓国、中国とも  
倍政権をストップさせないと、  
日本が戦後70年間守つて来た、  
平和国家といえるもつれの  
線を超えてしまひ、という危  
機感を抱きました。

（中会神学生・和田一郎）